

三宅伸吾著「Googleの脳みそ―変革者たちの思考回路」日本経済新聞出版社 2011年7月25日刊  
を読む

## 「謀反」のすすめ

1. ベンチャーの旗手と持ち上げられた若手経営者も粉飾決算などで逮捕、起訴され、下級審で懲役2年6月の実刑判決を受け、最高裁もこの判断を2011年春、支持しました。ライブドア元社長の堀江貴文です。
2. 信頼や権威が地に落ちる一方、経済は20年間、ゼロ成長です。政治不信も深まっています。しかし、我が国では大規模なデモも起きません。それなりに豊かになり、表現の自由も確保され、社会が安定しているからでしょうか。若者が覇気を失い「草食化」しているからとの見方もありますが、政府に頼ってきた現在の高齢者が積み上げた巨額の財政赤字や将来の社会保障負担、挑戦するTシャツ姿の若者に眉をひそめる社会の風潮に、若者が適応しただけかもしれません。
3. いずれにせよ、この安定がいつまでも続かないことは明らかです。シルバー民主主義、利権保護政策、リスク回避至上主義……。日本社会のまだ多くの分野で既得権者の力は強く、高齢化が社会の保守化を加速させています。新陳代謝はあまり起こらず、社会の活力が損なわれているように思えてなりません。企業価値を引き出していない経営に喝を入れる敵対的企業買収はまだ日本では謀反のままです。
4. ありがたい、おかげさま、もったいない、一期一会……。また、拝金主義に眉をひそめる人々が多いなど、日本には素晴らしい美徳や文化、伝統があります。堀江もかつて、「金で買えないものは無い」と言い切り、拝金主義者と反発を受けました。しかし、どうも本人の弁によると真意は違うようです。「この世に生を受けたからには、何か少なくとも1つでも大きな成果を残したいと思ったし、そう思う人は多いと思う。それを成し遂げる上でお金というものは、非常に大きな力になることは間違いないでしょう。特に、地縁・血縁など生まれもって授かったものがない場合は特に」とのことです。後講釈と勘ぐる人もいることと思いますが、内容はなるほどと思わせます。
5. 2011年3月の東日本大震災以降、日本全国に広がる助け合いの精神など、我が国には守り続けるべきものも少なくありませんが、日本をダメにしている制度や社会の空気を入れ替えるため、そろそろ、声を上げなければなりません。もう静養は十分でしょう。
6. 法令や業界の自主規制、会社の内規、地域社会の慣行など多くの決め事が私たちを守るとともに、行動を縛ります。一度できあがったルールや仕組みは、目的を終えても、すぐには自壊しないものです。新しい技術や考えを手にした“謀反人”がそれぞれの分野で旧くなったルールやその守護者の権威・権力に挑み、成功と挫折の軌跡のうえに、新たな社会が徐々に形作られていきます。

7. 「新しいものは常に謀反」(徳富蘆花)です。社会に大きな満足を与える新しいこと＝イノベーションは、いつも日常への異物として姿を現し、既存の秩序にとって大きな脅威です。情報技術革命の結果生まれたインターネット上のフェイスブック、ユーチューブ、ツイッターやウィキリークスなどが独裁的政治体制や情報公開を渋る政府、伝統メディアに与えた衝撃はまさにその実例です。国内に目を転じれば、投票価値の平等を実現するための最高裁裁判官の罷免運動や選挙無効訴訟は罷免運動の対象者や政治家にとって気持ちのいいものではありません。
8. 体制への最大の破壊行為は革命です。ラテンアメリカの知識人が、キューバ革命の立役者チェ・ゲバラにある日、たずねたときのことです。

「わたしの国の革命のために、どうしたら貢献できるでしょうか」  
チェは問いかえした。  
「失礼ですが、あなたは何のお仕事をなさっていますか」  
「わたしは筆述業者です」  
「ああ～ わたしは医者でした」  
とだけ、チェはいった。

三好徹『チェ・ゲバラ伝』(原書房・2001年)

9. 革命は、信じる正義のために闘う命がけの謀反ですが、私たち 1 人ひとりが現状を打破するため、身の回りで小さな変革を起こすことはそれほど難しいことではありません。将来世代のために何ができるのか。自分の頭で考え、できることから行動に移すことです。政治のありさまは鏡に映った主権者の姿です。批判、評論ばかりしていても何も変わりません。日本に閉塞感が深まるのは怒りを手足に現わす“謀反”が少ないためです。まず、身近な、正義への謀反を起こしましょう。批判より行動へー。
10. マーク・ザッカーバーグはフェイスブックを創業して間もないころ、アイデアを書き込んだ革表紙の手帳を持ち歩いていました。表紙には「変化の書」とあり、こんな引用が続いていました。

世界を変えたければ、あなたが変わらねばならない—マハトマ・ガンジー—

P342 ~ 345

[コメント]

三宅氏の尊敬するチェ・ゲバラの言いたいことは何か。私は医者であったが革命をした。あなたは著述家であるなら、ペンを用いて革命をしたらよいのではないか。そのようなことかも知れない。沈黙しては何も変わらない。行動することがすべて。三宅氏が本書で伝えたいのは、このようなことかも知れない。

— 2011年11月15日 林 明夫記 —